

台風14号の痕跡



秋彼岸前に到来した台風14号。苑内の大木の枝が折れたり、仏像が倒れましたが、幸いにも墓地への被害はありませんでした。ご安心ください。

撮影日：R4.9.20

奈良山通信

No.37



作業中にお参りに来られた利用者様には一部通行止めにつきご不便・ご迷惑をおかけしました。おかげさまで環境整備も行うことができました。

お墓の継承・維持でお悩みの方 安心を提供!

お任せください。私達がお手伝いいたします!

お墓に関するお悩みご相談ください。

実家のお墓はどうすればいいの？

お墓の継承者がいない

体力的にお墓参りがつらい

子供に迷惑をかけたくない

ご提案いたします!

- ◆永代供養型墓塔
- ◆永代供養塔
- ◆樹木葬
- ◆お預かりサービス

がございます。

お墓の相談会 気になっているけど、どうすれば・・・?

毎月 第4土曜日
10:00~15:00

社長と常務が、お客様に寄り添ったご提案をいたします。

※事前のご予約をお願いします!! (相談：無料)



お墓のお手入れしませんか?

お墓は、一般的に代々継承されていくものです。しかし、何十年と風雨や日照などにさらされると、墓石が傷んだり自然風化が occurs。気になることがございましたら、ご連絡ください。お墓の「メンテナンス」を承ります! **見積無料**

当苑へお墓を建立されている方へ朗報!

永代供養塔や樹木葬へ移行の場合、**お墓の撤去費用を利用者割引** いたします。お気軽にご相談ください。(相談・見積り無料)

●お墓参り代行サービス 承ります!

- ・体調が悪くて外出できない
- ・家から遠い

などの理由でお墓参りに行けずお悩みの方、墓所を清掃し、シキビ、お線香をお供えいたします。実施後はお墓の様子を写真に撮りお送りいたします。(有料)

事務員 音Jの日常 ~シカとの遭遇!!!!~

ある日、霊苑掃除をしていると山の茂みからカサカサ… 小心者の私は、ピクピクしながら音のする山の方を見つめ原因は何なのか探しますが分かりませんでした。それから、掃除を続けているとまたカサカサと音がする。気になりしばらく山の方を見つめると… 木々の間から鹿がこちらを見つめていました!!! 驚きとどうしていいかわからず、鹿と見つめ合う事数十秒… こちらに向かってきたらどうしようと考え、持っていたブローという機械のスイッチを急いでON!!! ブーンと音が鳴ると山の奥へ慌てて逃げて行きました(笑) その後ろ姿を見てホッと安心しました。霊苑に行くときたくさんの生き物に出会います。次は、あなたが動物と遭遇するかも!?



※写真はイメージです

生まれたよ! 蓮の下に“メダカ”が泳いでいます

咲いたよ! ~事務所前の蓮~

スイスイ

蓮の茎が伸びてもここ数年は咲かなかった蓮の花が、今年はお盆前に咲きました。そして、蓮の水鉢をよ〜く見るとなんと“メダカの赤ちゃん”が何匹も泳いでいるではありませんか!!!

メダカが産卵したのも気が付かなかった(笑) 近くへお越しの際には、覗いてくださいね。



場所：第3期墓地

夏から秋まで開花するサルズベリ 満開の花がとっても綺麗♪

発信元：奈良山霊苑管理事務所
〒798-1351
愛媛県北宇和郡鬼北町奈良4230-1
電話番号 0895-45-0164
http://narayama-reien.jp
営業時間 9:00~16:00
定休日 日曜・祝日・年末年始

商品の配送できます

故人へのご供養にお線香やローソクを贈りませんか? コロナ禍の昨今、亡くなった事を「葬儀後に知ったので線香を贈りたい」と来店されるお客様が増えました。管理事務所から配送出来ますので、お気軽にお申し付けください。

- ・線香
- ・ローソク
- ・線香+絵蠟燭

各種ございます

ご利用者様へ

①年間管理料について (墓地該当者様)

今年度の年間管理料は10月27日(木)にお引き落としさせていただきます。お引落し口座の変更、領収証送付のご希望がございましたら、事務所までご連絡ください。また、お振込の場合恐縮ですが振込手数料はご負担願います。

②納骨(埋葬)について

墓地埋葬法第十四条により無断で納骨する事は出来ません。納骨の際には必ず「埋葬(改葬)許可証」を提出ください。

専務のコラム



今年も多くの著名人がこの世を去りました。9月30日には笑点でおなじみの6代目円楽さんが肺がんのためお亡くなりになり、翌10月1日には新日本プロレスの創設者であり元参議院議員のアントニオ猪木さんが闘病の末この世を去りました。円楽さんは亡くなる一か月前まで高座に上がり、アントニオ猪木さんは死ぬ間際まで自身の闘病をSNSで発信しつづけた。好きなことや得意なことを生業としたお2人にも人知れない苦労はあっただろうが、どちらも悔いの無い人生を送られたのではないだろうか。

私は今までも「専務のコラム」では亡くなった父のこと、母のこと、そして終活についてなど、よく「死」にまつわるテーマを多く取り上げてきた。石屋の両親から生まれ墓石に囲まれて育ったこと、その両親との別れを経験したこと、とにかく「死」について考える環境がバッチリ整い過ぎているので致し方ない。そのためか私は常々、死ぬ準備は早いに越したことはないと考えている。と言いながらも後30年は生きるつもりでいますがねっ！



当然のことだが、いかに医療が進歩したとしても人の致死率は100%であるが故に、いずれ自分自身にも別れの時がやってくる。その時に慌てふためいてポックリ逝かないように、忘れ物の多い私だからこそやり残しが無いよう入念に計画を立てている。残された2人の娘に残すものと残さないものを吟味しながら仕訳していくのだ。結果、「ナンデヤネン」と首をひねるものもあるかもしれないが、「母はもういない、あとはヨロピク」、と割り切っていこう。

先日読んだ本に、「人が死に際に後悔する10のこと」が書いてあった。本当にやりたいことをやらなかった事。健康を大切にできなかった事。仕事ばかりしていた事。会いたい人に会いに行かなかった事。学ぶべきことを学ばなかった事。人を許さなかった事。人の意見に耳を貸さなかった事。人に感謝の言葉を伝えられなかった事。死の準備をしておかなかった事。生きた証を残さなかった事。



人は病気になったり高齢になるまで「死」についてどこか他人事のように考えてしまうが、健康なうちに死の準備をすることは、時間を大切に、自分を取り巻く周囲の存在に感謝して充実した人生を送るということだと思う。

とにかく忙しいこの世の中、たまにはゆっくりと自分の人生を振り返ってやり残したことはないか、考えてみてはどうだろう。

「死は人生の終末ではない。生涯の完成だ。」

